

## ナノテク・材料研究者育成の人材システム

(実施期間：平成 18～22 年度)

実施機関：北陸先端科学技術大学院大学（総括責任者：片山 卓也）

### プロジェクトの概要

ナノテク・材料研究の先端を拓き、広い視野と高い倫理観を持ち、学生とともに自らも成長し続けるような若手研究者を育成し、定着させる。マテリアルサイエンスを主分野とした講師 8 名を国内外公募により 5 年間任期で採用し、材料、情報の先端研究や博士研究員も所属する独立した研究室の運営などの経験を積ませた後に、厳格な審査を経て 6 名程度をテニユア准教授へと昇任させる。新任講師にスタートアップ資金などを措置し、講義や副テーマ指導などの大学院教育経験、著名研究者との定期的交流、相互ゼミ、科学倫理教育などを含む育成プログラムや短期サバティカルの実施などにより研究拠点を担うのに相応しい若手研究者を育成する。なお、既に任期制を実施しているが、新たなテニユアトラック制度人事システムへ移行し長期的緊張感を維持するため、准教授、教授については、35～60 歳まで 5 年ごとに業績などを多角的に評価する予定である。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	s	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

開学以来の全職位任期制の長所と短所を踏まえ、独自のテニユアトラック制（以下、「TT 制」という）への移行の試金石として本プロジェクトを実施した結果を真摯に分析し、実施期間途中に一般教員へのテニユア付与審査手続きを要項として決定していることは評価できる。しかし、その運用や若手研究者育成の施策については不透明な部分があり、今後、それらを明確にすることによって、機関独自の TT 制の進展を期待する。

- ・ **目標達成度**：自機関のテニユア採用率は達成されていないが、優秀な人材が定着しにくい開学以来の任期制を、助教職を除いて TT 制に移行させるなど他の事項については概ね達成しており評価できる。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：多様な若手人材の任用に成功している点は評価できる。しかし、外国籍研究者の業績は必ずしも上がっておらず、3 名中 2 名がテニユア審査不合格となっており、機関独自の TT 制において、外国籍研究者の育成方法の一層の改善努力を期待する。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：メンターの選定方法などテニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）の自立性に配慮がなされ、「選考委員会」と「評価・審査委員会」との独立性が保たれている点は評価できる。
- ・ **制度設計に対するマネジメント**：総括責任者のリーダーシップによってテニユア審査に不合格

となった TT 若手を、3年間の任期付き准教授として任用するセーフティネットが設定された点は評価できる。しかし、任期中におけるより明確な育成策の確立とその実施を期待する。

- **実施期間終了後における取組**：総括責任者がリーダーシップを発揮し、全ての教授・准教授に TT 制を導入したことは高く評価できる。
- **中間評価の反映**：外部評価委員会の学外者比率を向上させるなど中間評価に的確に対応している点は評価できる。